

人間は誰でも、すぐに結果が手に入らないと気持ち荒れてきて、ただ単なる我慢で終わっちゃうんですね。我慢ではダメですね。自分の目標、目的、希望を叶えるために今日も一歩、明日もまた一歩というつもりで、いつも「第一歩」ですよ。その第一歩の大切さをユダヤの格言でこういう話があるんですね。「ゼロから1への距離は1から100の距離より遠い。」普通はゼロから1ってすぐですよ。1から100って遠いですよね。しかし、本当は気持ちの上から言えば、1から100の方が近い、ゼロから1、つまり第一歩を踏み出すということがいかに大変かということユダヤの格言が教えているんです。私はいつも新しい気持ちで臨んでいます。前にも断られた、あの人がいなきゃいいのに；、そういう気持ちを持って行けば、必ず（それを）気として発散してしまふんです。いつも新しい気持ちを持つために、自分がどんな志を持っているかということが大事ですね。早く売り上げを上げて、利益を上げて儲かればいい、そんなものは欲望であって志とは言わない。本当の志というのは、自分が今日やる努力が自分のためだけになるんじゃない、世の中、社会のためになることを志といいます。これが欲望と志の違いです。ほとんどの人が欲望です。

### 行商を始めたころの志は

業界全体が反社会的なことを平気でやる、これはなにも自動車関係だけではない、どこでもです。当時はお客様を騙して儲ければいいという、そういうことが通用した時代でした。

# 便教会新聞

第135号

平成30年2月

## 縁 尋

便教会は、教師の教師のためのトイレ掃除に学ぶ会です。「方法論や技術や手法ではなく、ただ身を低くして実践あるのみ」の教育方針で、自らの人格を高めることを目的としています。

便教会新聞発行責任者 高野修滋  
〒四四五〇八〇二  
愛知県西尾市米津町天竺桂二七  
T/F 〇五六三ー五六四三二七  
携帯 090 - 4215 - 1727

### 『掃除に学ぶ』

(愛知県) 扶桑町立扶桑北中学校  
教諭 酒匂 健児

便教会との出会いは10年前、江南市立北部中学校に勤務していたときでした。沖縄から転校してきた生徒の指導に多くの教師が苦勞していました。その生徒と保健室でよく話をしていた養護教諭の熊澤尚子先生が、その子を変えたい！という強い思いから、江南市立北部中学校便教会がスタートしました。

当時の私は、部活指導がしたい！という強い気持ちで、小学校から中学校への異動を希望して転動してきた時でした。「自分が中学校でバスケット部の指導をすれば強いチームになる」と調子にのった発言もしていたこともあり、結果を出したいという気持ちばかりが先行していたのかもしれません。しかし、現実には厳しく公式戦では一度も勝つことができませんでした。何とかしたいといういろいろ考えて練習を工夫していたつもりですが、効果的な指導は見つかりませんでした。負けが続く状況下で、言い訳や負け惜しみばかり言っていたように思います。

そんな生意気な若造でしたので、勤務校で便教会が実施されていることを気にもとめていませんでした。完全な他人事でした。

た。ですから、ある意味ではお客様が困っているときは儲けるとき、そういう風潮がありました。私は、商人としてそれは非常に浅ましい、卑しい考え方で、そんなために私は生きていくんじゃない。できれば絵に描いたような理想的な会社をこの世の中に創りたい、これが私の希望なんです。前にいた会社で、私は普通の三倍ぐらい給料をもらっていたんです。私は高校しか出ていないんですけども、大学卒業した人の給料の三倍ぐらいもらっていたんです。待遇は何も不満はないんですけども、志は満たされていなかったんです。自分の理想が高ければ高いほど人に共鳴してもらうのは困難なんですね。

いろんな縁を通して私の所にも二人、三人と入ってくれる人が出ました。私は自転車に乗っていましたけども、そういう人たちには中古車の軽自動車を買って乗ってもらって、営業活動をしてもらいましたけども、当時、人心が荒んでおりましたね。たとえばこの会社が嫌なら、午前中（会社を）辞めて、午後から他所の会社へ行くというようなことが通用した時代でした。どこでも人手が欲しいですから、一つのところで辛抱するというのは、よっぽどの大会社でなければそういうことはなかったんです。方々を渡り歩いた人がきますと、もの凄く言葉遣いも表情も険しいですね。態度も粗暴。この人たちをどうやって穏やかにしていこうか、普通の心になってもらうか。これが経済と合わせて私に二つが課せられたんです。大きな課題でした。

江南市立北部中学校での便教会が軌道にのり、いろいろな生徒が参加するようになっていきました。そんな中、一年に一回、部活動単位で便教会に参加する体制になりました。便教会を否定するような気持ちはまったくなく、多くの生徒が参加した方が良く素直に賛成でした。しかし、自分が参加するのは負担に感じていました。部活の練習時間が削られることが苦痛で積極的な気持ちでは参加できませんでした。でも、そんな気持ちでも数回ですが参加したときには、無心で便器を磨き、横で同じように掃除をしている生徒の姿を見て感動し、とても良い活動だと感じました。そんなあやふやで積極的になれない気持ちで4年間便教会に関わりました。

6年前扶桑北中学校に異動しました。その年はそれまでの教員生活で最も苦しんだ一年間の始まりでした。授業をエスケープする生徒の対応など、生徒指導が中心となる日々苦悩が続ききました。罵詈雑言を毎日のように浴びせられ、常に気を張っていないといけません。生徒を追いかけ回したり、隠れているのを探したり学年全体に怠惰な雰囲気広がっており、授業も上手くいきませんでした。掃除の時間には休み時間との区別ができません。掃除の時間は自分の掃除分担当所に移動しない生徒が多く、運動場では問題行動のある生徒達のソフトボー

### 【編集後記】

愛知工業高校定時制便教会ご指導くださった安井佑騎先生に敬意を表します。定時制高校がどこか想像できない方もいるかと思いますが、偏見と言われるかもしれませんが、社会のしわ寄せ・荒みの影響を受けた子どもが通う学校でもあります。安井佑騎先生は真剣に生徒と向き合って、心を穏やかにする取り組み（トイレ掃除）を四年間続けられ、先日、最後の愛工便教会を終えて、その活動報告をいただきました。そこには「入学して一年生の頃は、『なんだ、この学校は』と思ったんですけど、何とか二年生になって『学校を辞めよう』と思った時期もありました。でも、安井先生に止められ『三年生の修学旅行までがんばろう』と思いました。修学旅行まで行っちゃうと、卒業まで行っちゃうと。」「便教会総会では、全国からお掃除仲間が愛知工業高校に来てくださって、実は自分は見知りなのでめちゃくちゃ恥ずかしかったですけど、嬉しかったです。就職してもトイレ掃除をします。」「友だちに『一緒に掃除しようぜ』って誘われて始めましたが、たまには『今日やりたくねえなあ』『体調悪いなあ』そういう日もありました。でも、今では『卒業後も続けられるといいなあ』と思っています。トイレ掃除で助け合い、より仲良くなれたと感謝しています。」「今まで掃除をしてきていろいろなことがあったけど、何よりもこれからの自分のためになるし、敬遠されるトイレ掃除をこうやって続けてこられたことが凄いいことだし、頑張ったなあと思いました。」「僕は最初、掃除嫌いでした。正直、トイレ掃除なんて、なんでこんな汚いことをしないとイケないのかって思ったんですけど、やってみて、継続してこの仲間とやってきて、今では『やってきてよかった』と思います。この経験を今後の糧にして生きていきたいです。』と綴られていました。私も何度か参加しましたが、彼らの表情の変化には目を見張ります。安井佑騎先生の掃除と生徒に向き合う熱量が今後も増していくことを願っています。掃除は最善をもちます。 高野修滋 拜

ルが行われていました。心がすり減る毎日でした。この状況を何とかしたいという思いはありましたが、結局、何もできませんでした。この荒れた状況に耐えることしかできませんでした。生徒達との人間関係を良くしていくために対話の時間を多くもち、雑談をいっぱいしました。そうやって、少しでも信頼関係を築いていくことしかできませんでした。でも、この学校を良くするために何かをしなければいけないという気持ちはありましたが、なかなか動き出すことができませんでした。結局、何もすることができず、目の前の仕事を処理するだけで精一杯でした。

この頃に、フェイスブック上で新任校で一緒に働いた小山晃範先生が、便教会の活動に取り組んでいることを知りました。毎月、ご自身の勤務校で便教会を開催するだけでなく、様々な場所に出かけてトイレ掃除に取り組むその様子

にはものすごく勇氣づけられました。また、この年、扶桑北中に異動してきた上田勇人先生が前任校（高浜中学校）で便教会に参加していたというのも自分の背中を押ししました。様々な偶然が重なり、この学校を良くするために何かをしなければという気持ちだが、扶桑北中学校便教会開催という具体的な形になりました。

自分は大きなことをやるよりコツコツと長く取り組むことに向いていることや、忙しい中学校現場で自分一人の力では限界があることを考えて、同僚を誘って活動や理解を広げていきたいと考えました。

小山晃範先生が勤務する犬山市立城東小学校便教会に同僚を誘って二度参加しました。その後、扶桑北中学校で先生中心の便教会、その後生徒と一緒にする便教会を愛知工業高校定時制の安井佑騎先生や小山先生の力を借りて何度か行いました。

いろいろな方に協力をしていたしながら、一年に二回程度の開催が精一杯の状態です。本校は道徳の研究指定もうけており、その研鑽にも多くの時間をつかっています。土日は部活指導に多くの時間をとられています。便教会活動をもっと活性化させたいとは思っていますが、仕事が山積みであれもこれもとできないのが現実です。しかし、私は自分がこのように考えられるようになったこと、便教会活動を主体的に始めたことに驚いています。様々な出会いと環境がなければ、思っても何の行動にも移すことができない人間だったと思います。小さな力しかない人間にでも、それなりの便教会の

なった。酒匂先生も前任校で便教会を行っていたという話題になり、自分もやっていたことを伝えると「機会があればぜひやりたい」という会話ができた。自分が赴任して二年間はできないままであったが、その間に城東小学校の小山先生が酒匂先生の友人ということもあり、城東小学校の便教会に参加させていただき、便器を磨くことと感覚を思い出すこととなった。酒匂先生と一緒に便教会を扶桑北中学校でも開きたいという希望を叶えるために、小山先生に相談し、道具を貸していただき、とうとう扶桑北中学校でも開催されることとなった。グラウンドのトイレ、体育館のトイレ、プールのトイレ、校舎のトイレ、と回数を重ねるごとに学校がきれいになっていく様子はとても清々しく、それに共感していただいた扶桑北中学校の同僚の先生方にも参加してもらうことができ、掃除の輪が広がっていくことにとても心が洗われる感じがした。また、高浜中学校の森田先生と出張先で再会したときにその話をすると、「今度やる時にぜひ呼んで！」と言っていたら、昨年、扶桑北中学校でご指導をいただけた。そのときの便教会ではもう一つ大きな進展があった。それは生徒も参加してくれたということだ。今まで何回か便教会を扶桑北中学校で開いていたものの、生徒が参加することはなかった。しかし、森田先生の提案から生徒もぜひということだったので、募集したところ、二年生が二人参加してくれた。森田先生が褒めるとうれしそうに笑顔を見せていた。その瞬間、とても嬉しい気持ちになり、生徒と掃除の時間を共有できること

実践をすることができていることに感謝しかありません。少しずつですが、賛同してくれる同僚や生徒が増えてきているので、いつか大きな渦になることを信じてコツコツと扶桑北中学校便教会を継続をさせていきたいです。

## 『縁によってつながる掃除の心』

（愛知県）扶桑町立扶桑北中学校

教諭 上田 勇人

便教会に初めて参加させていただいたのは、前任校の西三河地区にある高浜中学校である。高浜中学校では森田泰行先生ご指導の下、自問清掃が行われていた。私は初任者として高浜中学校に赴任したため、自問清掃が当たり前と思っていたが、数年前まで掃除の時間は遊びの時間になっていたと聞いた。その遊びの状態から、全校を体育館に集めて掃除の方法や意義を委員会を中心に発表する清掃集会や、自問清掃の黙想を取り入れるなど、多くの取り組みによって掃除の時間になっていったのである。その活動の取り組みにとっても感銘を受け、森田先生が行っていた高浜市内の小中学校で行われていた便教会にも何度か参加させていただいた。便器を素手で触って掃除することに抵抗がなかったと言ったら嘘になるが、掃除をしていると真っ白な便器が見えてくるのである。その変容を見てとてもうれしくなり、黙々と磨き続けた。掃除をすることの大切さを知って、とても充実した初任3年間を高浜中学校で過ごさせていた。

の大切さも、改めて知ったのである。

扶桑北中学校便教会開催から三年、普段の掃除の姿も大きく変わろうとしていた。身勝手な行動をしていた生徒たちも落ち着いてきて、フラフラする生徒はいなくなった。昨年、生徒総会で「無言清掃」が提案され、それが実行されることとなった。今年、廊下は人の姿が映るくらいにピカピカになり、汚れと向き合って掃除を続ける生徒も多くなったが、高浜中学校の自問清掃のレベルまでに至ってはいない。しかし、掃除に関わる取り組みをしたことで、生徒の意識はもちろん、教師集団の意識も大きく変わっていた。年度末の反省の際には、「無言清掃が定着してきて、掃除に対する意識が高まっている」などの前向きな意見が多くいただけた。地道に掃除と向き合っていくことが大切であると強く思った。

掃除の大切さ、その本質について考えるようになったのは教師になってからである。高浜中学校で便教会や自問清掃の方法を学び、扶桑北中学校ではそれを実行することの難しさについて学び、同時にそれが活かされていくことの嬉しさにも気付けた。それはすべて縁によって繋がっていると感じている。高浜中学校で森田先生に出会っていなければ、掃除について深く考えることもなかったであろう。さらに、扶桑北中学校で酒匂先生に出会わなければ、便教会を前任校で広げていこうとも思わなかったであろう。縁あって繋がり、自分を高めさせてくれている掃除。これからの掃除指導、便教会活動が楽しみだ。

教師4年目、扶桑北中学校に転任し、やる気満々で3年生担任としてスタートした。しかし、その高いモチベーションはすぐに崩されることとなった。当時、扶桑北中学校は身勝手な行動をする生徒が多く、その生徒たちと対話をするも、なかなか分かってくれずに衝突ばかりを繰り返していた。そのときに自分の力がこまでき及ばないのかと、自信を大きく喪失したことを今でも覚えている。

掃除の時間も身勝手な行動をする生徒は多くいた。一昔前の高浜中学校のように、掃除の時間は多くの生徒にとってお遊びの時間であり、掃除が始まる時間になると複数人の男子生徒が集団を作り、廊下や外を歩き回るのだ。その集団についていって、「掃除しろー！」と指導をし続けた一年間は本当に辛いものであった。また、身勝手な男子生徒たちの指導をしている間、他の生徒たちは掃除をやっているのかと疑問に思っ掃除の様子を見てみたことがある。その様子は、ただ掃除担当の場所について座っていたり、雑巾を床に置いてやっているふりをしていたりと、全体の掃除の意識が低いものであった。これも大きな問題だと感じ、高浜中学校での経験を活かして、自問清掃や便教会ができないかと考え、先輩の先生に相談したこともあった。しかし、自分も詳しい方法を知らないことに気が付き、高浜中学校の際には、ただ作られた場に行ってお客さん気分で行っていたことに気づき、そこでも落胆することとなった。

しかし、一緒に三年生担任をしていた酒匂先生との会話が大きく自分の意識を変えるものと

## 『私の人生 その三』

日本を美しくする会  
相談役 鍵山秀三郎

訪問販売等、一件一件回っている人に送る  
アドバイスは？

「心の持ち方」です。たとえば、三回行っても、五回行っても断られる。そうしますとだんだん腹の中でむしゃくしゃしてきて面白くない。面白くなければ行かなきゃいいんですけど、そうはいかないので行きますよね。そういう気持ちで行ったんではダメですよね。まだ自分の努力が足りない。だいたい努力といいますが、自分が少々やっただけの結果が手に入るようなものは努力とは言わないんです。やってもやっても手に入らないことを努力と言います。それをやり続けていると、最初、目標を決めますね。その目標に向かって進んでいくと、その目標がどんどん遠ざかって行っちゃうんです、目標が逃げて行っちゃうんです。それをやり続けていると、今度は目標の方から歩み寄ってくるんです。そういう時期がありますね。これが努力というものです。たとえば五回行って断られた、六回目ですね、もう今までに五回も来て断られているのに六回目じゃなくて、私は「今日初めて行く」つもりで行くんですね。

気持ちはどのようにコントロールしているのですか？